

NPO 法人 ふろんていあタウン工房

ふろたん通信



2015年 2月 26日 広報センター

No. 7

MT.VICTORIA PROJECT 第3次調査隊遠征に向けての準備活動

□第3次調査隊の遠征は11月実施に決定！

「ふろたん通信」前号（NO.6）で、1月に予定していたビクトリア山第3次現地調査隊の派遣延期をお伝えしましたが、12月の山木会後も参加予定者他関係メンバーで実施時期について調整し、2月19日の山木会で今後の活動等を確認しました。

第3次派遣については、今シーズンは見送り、雨季明けの11月派遣とすること、準備期間に少し余裕が出来たので、第3次隊の主要任務の登山ガイドマップづくりについて、英訳版の作成な

などを前倒し、平成27年度の収益事業試行実施の準備を進めることを話し合いました。（英訳版については森田ご夫妻にボランティア翻訳の協力をお願い中です）

また、「飯能部会」「御旗部会」に続く第3の部会として、造園専門職チーム「森林部会」を設置することも話し合い、部会長は第3次調査隊予定メンバーの森下毅一さんをお願いしました。



（欠月のニケタ参加で盛り上がった山木会「ひるまの鬚琴」にて）

□「森林部会」とコミュニティ・フォレスト

「森林部会」の主たる活動は、昨年末にホームページの「ふろたんインタビュー」第1回に登場いただいた「まれやあれ」の安彦隆さん達（ミンガラバーユネスクラブ準備会）が取り組もうとしている「自然農園」活動への協力です。インタビューでは「森林農法」という森を育てながらの農業で、珈琲だけでなく有機野菜を栽培する「自然農園」を現地に持って、ミャンマーの人達と一緒に活動したいという夢を語っていましたが、その活動がボレボレ（ゆっくり）どころか、驚きのスタート

ダッシュで始まるようとしています。コミュニティ・フォレストという住民参加型の森林資源管理制度による農園づくりを計画し、車で北へ2時間程のヤンゴン郊外に今既に土地を確保し、今年の6月には植林開始です。

ふろたん工房のビクトリア山登山の適期は10月から4月の乾季、植林の適期は雨季の6月から7月上旬とのことです。植林活動とタイミングを合わせるのは難しいですが、ビクトリア山に比べると日本からの時間距離がスッと短くアクセスがしやすい場所での取り組みですから、登山帰りに農園を訪れて植林の成長観察をするなど出来ることから協力したいと考えています。いつの日かビクトリア山麓で、村おこしとして一緒に活動する「自然農園」が実現するかもしれません。



植林予定地と、向かい側にあるコミュニティ・フォレスト（写真提供：小野寺有菜さん）



□協力・連携ネットワークづくり

「ふろたん通信」前号では、ミャンマーの辺境の地での活動を行う持続的な体制の確立に向けて、目的を共有できるNPO等団体との協力・連携のネットワークづくり（「まちナビ倶楽部」に続く仲間を求めて…）を2015年の重点目標にすることもお伝えしました。コミュニティ・フォレスト活動も含めて、会の機関紙を交換してお互いの活動を知らせ合うことから始めてみようかと幾つかの団体と連絡を取り合っています。身近なところでは「多摩グリーンボランティア森木会」や「みなみ野自然塾」から、遠く北海道の「NPO法人北広島森林ボランティア・メイプル」などなど。

2月20日現在の会員メンバー

※新入会員

正会員：室井隆良 瀬川基之 安原昭子 浜崎良治 森田忠志 赤川勉 朝倉正浩 高田睦夫 安村孝志 宮本保宏 鶴見隆志 山本稔（12名）

賛助会員（個人）：安田重雄 川添修 岩本善恵 牛久保亮一 小平和司 高橋修司 青柳志郎 迎尚子 岡島史洋 安達昭郎 前澤一雄 鈴木俊明 大墨宗重 森下毅一 長野啓 三田村喜己男 小島正勝 前園耕夫 林和馬 佐藤智哉 桑島義也 高橋美穂 田中俊美 渡邊牧子 **六郷昌紀**（25名）

賛助会員（団体）：楳ビース・イン・ツアー（八井麻由美） 楳アルテップ（荒川俊介） ㈲プラティ・アソシエイツ（深島一郎） 昭和楳（高木長門） 楳都市開発リサーチ（菅野雅樹） 楳ヨシモトボール（柳澤匠）（6社）